

2026年度版

带状疱疹ワクチン定期接種

带状疱疹ワクチンの定期接種が始まりました

带状疱疹は50歳を過ぎると増加し、強い痛みや後遺症（带状疱疹後神経痛：PHN）が問題となる疾患です。2025年度から国の制度として定期接種が開始され、対象年齢の方は公費助成で接種できます。

定期接種は生涯に一度のみ

■带状疱疹とは

水ぼうそうのウイルス（VZV）が体内に潜伏し、加齢・疲労・ストレスなどで免疫が低下した際に再活性化して発症します。

●主な症状

- ・片側に带状に広がる痛みと発疹
- ・ピリピリ・ズキズキする神経痛
- ・発熱・倦怠感
- ・発疹が治っても痛みが残る「带状疱疹後神経痛（PHN）」

●発症しやすい年代

- ・80歳まで3人に1人が発症
- ・50歳以降で増加
- ・70代が最も多い
- ・高齢になるほどPHNのリスクが上昇

定期接種制度（2026年度版）

■2026年度対象年齢

2026年度は以下の方が定期接種（公費助成）の対象です。

- ・65歳の方（定期接種の基本対象）
- ・60～64歳で特定の基礎疾患がある方
- ・経過措置（2025～2029年度）

※その年度に70・75・80・85・90・95・100歳になる方も対象

制度上、定期接種として受けられるのは一生に一度だけです。対象年齢の年度に接種することをご検討してください。

■带状疱疹ワクチンは2種類

日本で接種できるワクチンは

- ①生ワクチン
- ②不活化ワクチンの2種類です。

生ワクチン（皮下注射）

- ・弱毒化ウイルスを使用
- ・1回接種
- ・予防効果：50～60%
- ・効果持続：約5年（8年後は10%未満）
- ・副反応：注射部位の痛み・腫れ、発熱は少なめ
- ・長期的な有効性：5年で効果低下、8年後は10%未満
- ・安全性：接種後50.6%に副反応：注射部位の紅斑44.0%、掻痒感27.4%、熱感18.5%、腫脹17%、疼痛14.7%

不活化ワクチン（筋肉注射）

- ・ウイルス成分のみ（不活化）
- ・2回接種（2か月間隔）
- ・予防効果：50代・60代で97%、70代で90%前後
- ・効果持続：10年以上（10年後も80%以上）
- ・免疫低下の方も接種可能
- ・副反応：注射部位の痛み・腫れ、倦怠感・筋肉痛など（2～3日で改善）
- ・長期的な有効性：11年以上持続、10年後も80%以上の効果
- ・安全性：注射部位副反応（2回接種合計）は80.8%：疼痛78.0%、発赤38.1%、腫脹25.9%など、全身性副反応は64.8%：筋肉痛40.0%、疲労38.9%、頭痛32.6%、発熱20%など



医師と相談し、体質・持病に合わせて選択することが大切です。

■まとめ

- ・带状疱疹は50歳以上で増加
- ・定期接種は生涯に一度のみ
- ・2026年度は65歳+経過措置年齢（70～100歳）が対象
- ・ワクチンは「生」と「不活化」の2種類

■接種をご希望の方へ

接種の種類や費用、助成制度については受付または医師にご相談ください。
尚、洲本市の対象者は案内を送付していますが、希望される方は洲本市役所健康増進課窓口で申請し、予診票をもらっていただく必要があります。（予診票は当日もらえます）



ふれあい 曾山医院

胃腸内科・外科・内科・肛門外科・循環器内科
soyama-clinic.com

志筑1391-9
Tel:62-5566

2026年9月号
(第164号)

発行人
曾山 信彦



編集委員会



曾山医院
ホームページ
soyama-clinic.com

